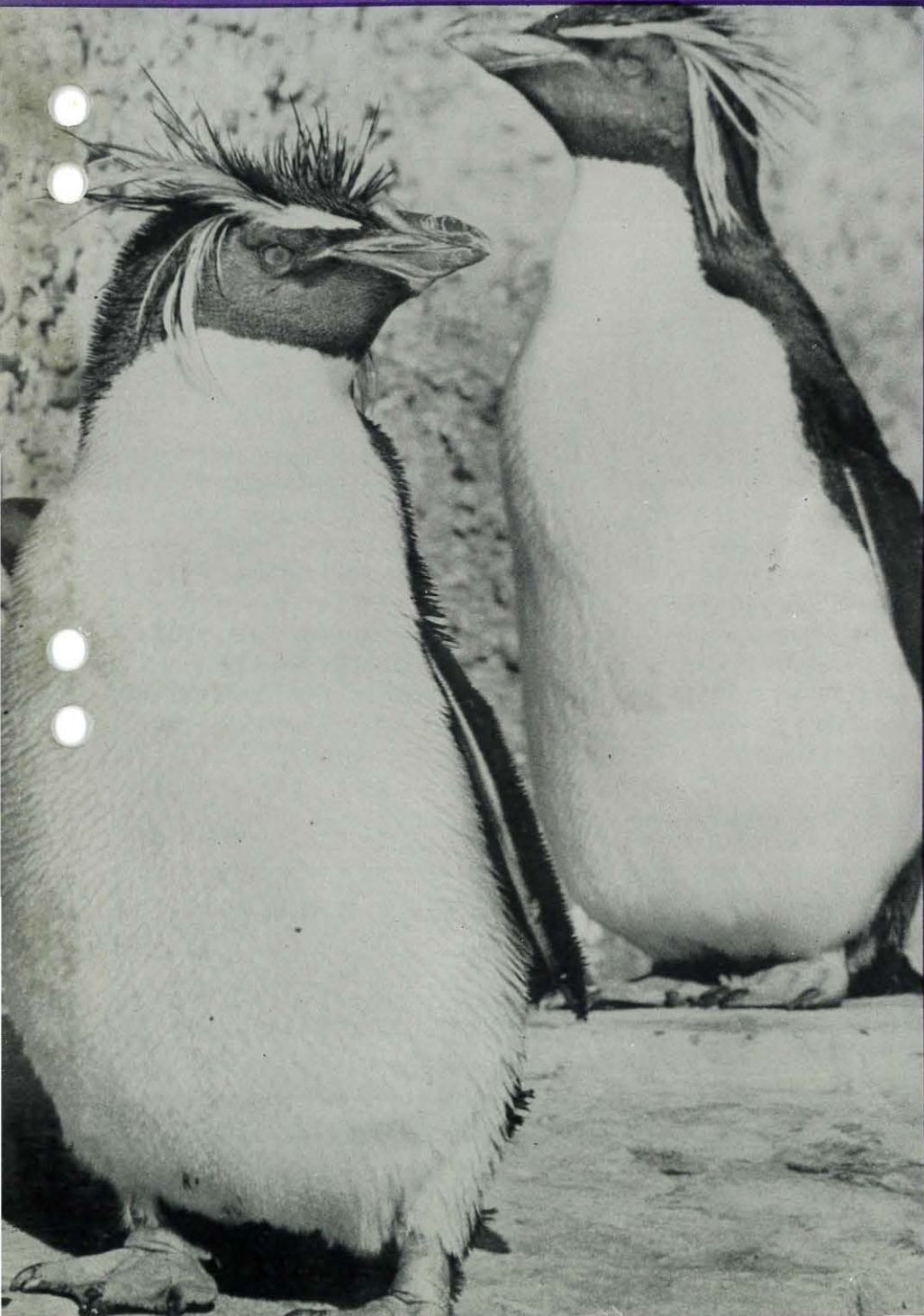


なきごえ



1971

2

大阪市
天王寺動物園協会

世界のペンギン

ペンギンの仲間は世界に1科6属17種います。その中で一番大きいのが南極大陸にすむコウテイペンギン (Emperor Penguin) で大きさは1.2mあります。一番小さいのがオーストラリアの南部海岸にすむコビトペンギンです (Little Penguin) その大きさは40cmです。

生息する地帯は南氷洋から北は東南部オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ、南部アメリカですが、その他に赤道上のガラパゴス諸島に固有の一種であるガラパゴスパンギンが住んでいます。何れも南半球がこの鳥の特産地です。

化石は南アメリカ南部、オーストラリア、ニュージーランド、などにも発見され、種類も12属あったと云われています。

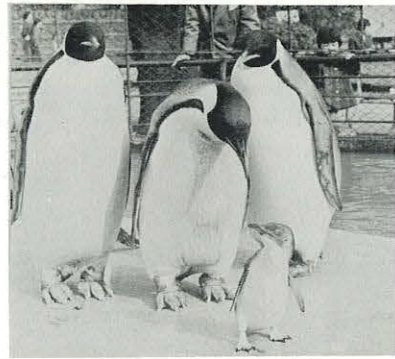
この鳥の特徴は、何と云っても飛ぶための翼が水中で泳ぐのに都合よくカイのようになってちょこんと体の両側に着いていて、脚が後に後退して人間のように直立姿勢をしていることで、この姿がとても愛さうがあります。

嘴の形もいろいろありますが最も立派なのはオオサマペンギン (King Penguin) です。

頸から上頭部に種類毎にそれぞれの特徴ある模様をしています。胸から腹部は、南アフリカや南アメリカに住んでいるケープペンギン (Cape Penguin) マゼランペンギン (Magellan Penguin) フンボルトペンギン (Humboldt Penguin) にはそれぞれ胸前から腹部に帯のような黒い毛を生していますが、これら以外のものは純白で、とても美しくペンギンを一層引き立て、いるようです。

日本には17種のうち12~13種のペンギンが来ますので高鳥春雄先生の発表から照会しますと次のようです。

(1961年8月 どうぶつと動物園 P6~9)



最小と最大
コビトペンギン・コウテイペンギン
(東京動物園協会提供)

- | | | |
|-----------------------------------|----------------|-----|
| 1) オオサマペンギン (King Penguin) | 昭和31年4月 名古屋動物園 | 2羽 |
| 2) コウテイペンギン (Emperor Penguin) | 昭和29年4月 上野動物園 | 2羽 |
| 3) オンジュンペンギン (Gentoo Penguin) | 昭和36年4月 長崎水族館 | 18羽 |
| 4) アデリーペンギン (Adeli Penguin) | 戦前 | |
| 5) ヒゲペンギン (Beaded Penguin) | 昭和22年3月 神戸動物園 | 1羽 |
| 6) マカロニーペンギン (Macaroni Penguin) | 昭和26年 大阪天王寺動物園 | 1羽 |
| 7) イワトビペンギン (Rock-hopper Penguin) | 昭和31年3月 名古屋動物園 | 3羽 |
- ケープ、マゼラン、フンボルトは戦前に日本に入っています。

これらのペンギンを手に入れるのには南アメリカや南アフリカに住む種類は飼育も簡単で、入手も容易ですが、南極に住む種類は仲々入手がむづかしいので、南氷洋に捕鯨に向う日本水産の捕鯨船団の方々によく依頼して捕獲してもらいますが、これらのペンギンを仕事のあい間に飼育して赤道を越えて日本につれて帰ることはそれはそれは大変な仕事です。

(松岡 恵爾)

表紙の写真説明

“イワトビペンギン”

岩の上をピョンピョンとはねるので、この名があるのでしょう。たいへんひょうきんな人なつっこいペンギンです。

ペンギンを飼って

当園では、キングペンギン5羽、ジェンツーペンギン2羽、イワトビペンギン2羽、マカロニーペンギン1羽、フンボルトペンギン12羽合計5種類22羽を飼っております。

フンボルトペンギンは、戦前戦後を通じ、各動物園で飼われており、繁殖も行なわれ、育雛にも成功しております。日本の気候にもよく馴れて夏の暑い時でも直射日光をさけてやれば、一年中戸外にても飼うことができます。昭和42年に図のような収容舎に移転し、フンボルトペンギンのみ運動場で飼っており、一月上旬頃より繁殖の準備にかゝります。

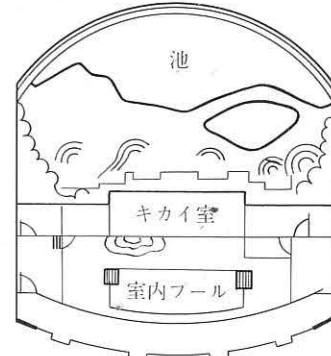
巣材 (ヨシズ、枯草) を入れてやると、嘴でくわえ巣をつくり始めます。その後交尾を陸上で行ない、卵は2コ産みます。残念なことに、この収容場にて雛はかえったことはまだありません。

食事の時間は、午前9時と午後4時の2回で、水中に投げ込み (小アジ4.5kg) ますと、嘴の2~3倍位の餌を平気で丸飲みしてけろりとしています。他のペンギンは自分で採食しないので、差餌にて、キングペンギン1羽に小サバ1kg、イワトビ、ジェンツーペンギン1羽に小アジ1.5kg、マカロニーペンギン0.7kgを一日量として与えております。

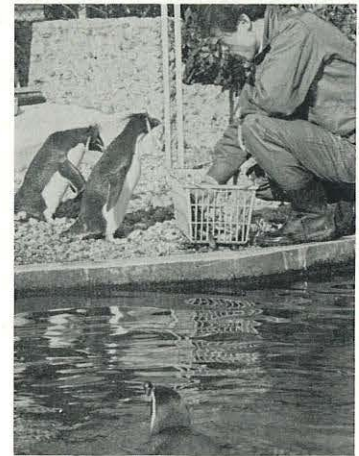
換羽については、大体7月中旬から8月上旬にて終了します。その時期の活動は不活発で、採食量もへり、換羽がすむと、活動も活発になり、採食量もまし、一年中で一番美しくなる時です。これまで当園で飼ったペンギンの種類は、コウテイペンギン、ヒゲペンギン、アデリーペンギン等で8種類になります。私の経験した中で、一番嬉しかったことは、キングペンギンが産卵、ふ化、育雛に成功したことです。

キングペンギンは昭和39年5月12日、日本水産株式会社より5羽寄贈されたもので、旧冷房ペンギン舎

内で飼育していましたが、羽数が増えるに従い収容面積が狭くなって来たので昭和42年5月中旬に今のところに移転しました。昭和43年に冷房室で、入園以来4年目で初めて卵を産み、おすめす交替で抱卵



ペンギン室52㎡・機械室30㎡



イワトビペンギンと筆者

していましたが、おいしいことに50日目に卵がわかって雛の形が残っていました。本当に残念でしたが、これで翌年に希望をたくしていた所、昭和44年5月20日に待望の卵を1コ産みました。(交尾は確認していませんが、多分水中で行われているのではないかと思います。) おすは両脚の上に卵をのせて6月25日まで抱卵し、その後めすにかわりましたが、その交替は見受けられませんでした。めすが卵のうちで抱卵し、嘴で卵を回転させたりし、その間、おすは他のペンギンのよってくるのを、羽をバタバタさせて近寄せませんでした。そのまゝめすが抱卵をしつづけ56日目の7月14日に薄チョコレート色のかわいいひながめすの卵のうちの中にチョココンと立っていました。「万才やったぞ」と喜びと同時に無事に成長してくれるよう心より祈りました。ひなは卵のうちでピーピーとなきめすは嘴で羽根をつくろってやったり、他のペンギンがもの珍らしく近寄ってくるのを、おすとめすで嘴や羽根にてひなを守りさかんに気を使っていました。ひながかえるや食欲も旺盛になってきましたが、1日目はひなには餌を与えませんでした。2日目からひながしきりに餌ねだりをしはじめるとめすは口移しで消化物をひなに与えだし、これで一安心、当分その状態がくりかえされて、おすはしばらくめすと一しょに立っていましたが、1週間位でプールにも入っていました。ひなは益々大きくなり8月13日頃から親もとから少し離れて、チョコチョコ歩くようになりました。10月の初旬には自から差餌小アジ3匹位食べるようになり、昭和45年の5月中旬に親ペンギンと一緒に戸外に出しましたが、他のペンギンと共に生活をするようになり、8月頃に完全にうぶ毛もなくなり、プールにも入り始めました。

(浅田 保夫)

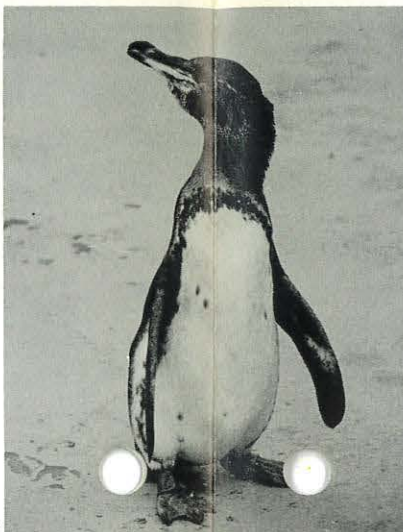
動物園グラフ

“ペンギン”

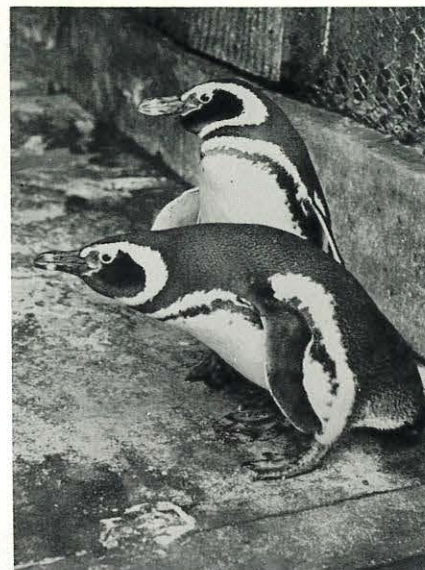
日本にわかれていたペンギンは、約12種類います。ここで写真により御紹介します。この他、表紙のイワトビ、2頁のコビト、アデリーペンギンなどがいます。



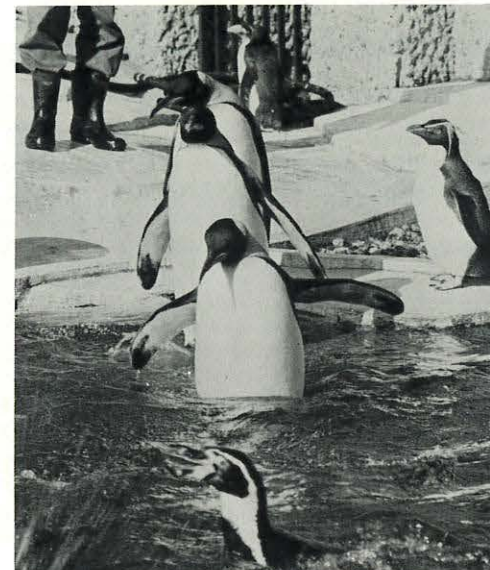
↑コウテイペンギン
一番大きいペンギン
(写真提供：東京動物園協会)



ガラバゴスペンギン→
赤道に近いガラバゴス
島にいる珍しいペン
ギン
(写真提供：東京動物園協会)

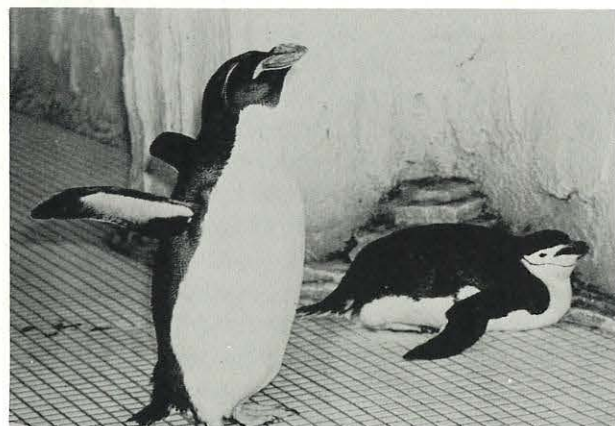


↑マゼランペンギン
チリーや、フォークランド
島にいます。
(写真提供：東京動物園協会)

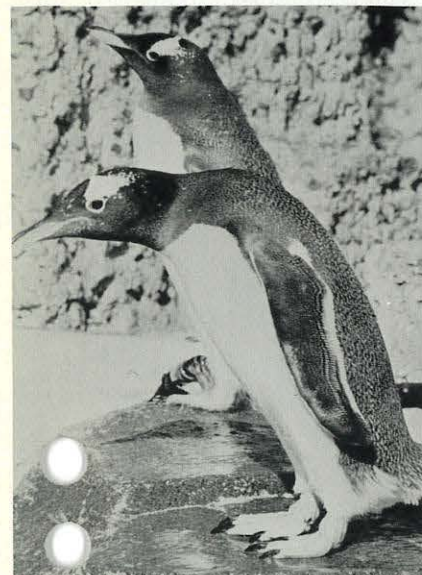


↑食後の運動

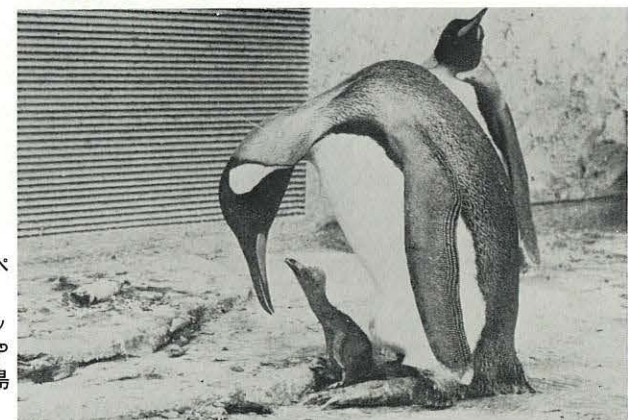
マカロニペンギン(左)と
↓ヒゲペンギン



フンボルトペンギン→
最も一般的なペンギン
です。南アメリカ、チ
リー南端にいます。



←
ジェンツーペ
ンギン
サウスシエ
トランド島や
南極近海の島
にいます。



キングペンギン
一昨年、本園でふ化、
↓育雛にも成功しました。

1月の動物園日記

- 1～3, お正月3カ日は大変おだやかな天気であくさんの入園者でにぎわいました。
- 5, ニホンザルの1頭が老衰のため死にました。
- 6, キョン(ヨツメジカ)のめすが急性肺炎のため死にました。
- 9, キョンのおすがまたも急死しました。急な冷え込みによるものと思われ、これで、キョンは、3頭となりました。
- 10, キーウイの体重測定をしたところ2100g と2000g ありま

した。

- 13, カムリクロザルのおすが1頭死にました。
- トビカモシカのおすの頬にできものができましたので治療をしてやりました。
- 14, ハナシカのめすがヘルニアという病気でしたが、手術をしてなおしてやりました。
- 15, オリックスに赤ちゃんができました。おすの赤ちゃんで哺乳をしていますので元気に育つでしょう。
- 16, 元旦から冷房ペンギン舎で行っていた“新春イノシシ

展”が終りあとかたづけをしました。

- 18, カワウソ1頭の寄付があり、小獣舎の人気者となるでしょう。
- 20, 繁殖してたくさんになりすぎた、ニホンシカやクジャクを動物交換として譲渡し、かわりに小鳥類多数を入れて繁殖を計ることにしました。
- 23, 2週間ぶりとかの雨で園内はしっかりとほこりもおさまりましたが、この冷たい雨で、カモシカ園のインドクロカモシカ3頭の調子が悪くなってしまいました。薬を

やったりしましたので、2日ほどでよくなりました。

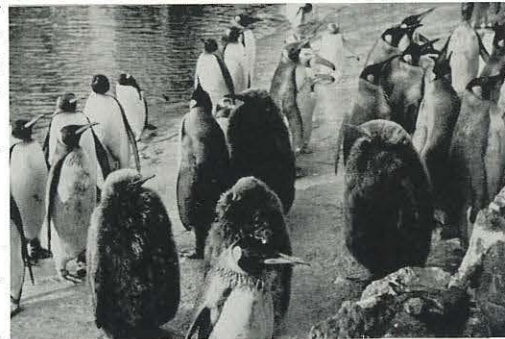
- 28, シュバシコウの一羽が、飛翔中ケージの金網に嘴をひっかけ上嘴を折ってしまいました。応急手当をしましたが出血がかなりあり、エサをひらうことができなくなってしまいました。
- 29, ダチョウに糸虫がいるので駆虫薬を与えてやりました。
- 31, クモザルが1頭妊娠しています。

ペンギンの話

山田 致知

動物園に飼われているペンギンを見ると、皆さんはきつと燕尾服一といつても背中が黒いだけで一じつはダン袋ズボンをはいた道化師を連想するでしょう。何羽もかたまっていたりすると、まるで井戸端会議でもしているようにみえます。そしてヨチヨチ歩きをするのを見ると、何の屈託もないように感じ見る者までが泰平ムードにひきこまれてしまいます。中には、雄大な南極の氷山を想像する人もいるでしょう。しかし、一口にペンギンといつても17種類もあって、南極の陸地で繁殖して本当に氷の世界だけに住む種類はごく一部で、どこかの動物園でも見かけるフンボルトペンギンやケープペンギンなどはむしろ氷海とは程遠い温帯の海鳥です。戦争前阪神パークで繁殖して有名だったのはケープペンギンでした。しかし、どの種類もみな南半球にすんでいて、ガラパゴスペンギンという種類が赤道直下のガラパゴス群島付近にまで分布しているのがペンギン分布の北限です。

ペンギンが鳥であることはわかりきったことですが、翼があって空を飛ぶのが鳥類の特徴ですから、ペンギンが全然飛べないのは不思議なことです。沢山ある鳥類には、万博記念にニュージールランド政府から大阪市に贈られたキーウのように翼がなくて飛べない鳥もありますし、ダチョウやヒクイドリのようにからだが大きく、飛びよりは走るほうが良い鳥もいないわけはありません。



（オーサマペンギンの繁殖 縮毛に包まれたオバQのようなヒナドリ。昭和35年、エジンバラ動物園にて筆者撮影）

しかし果てしない大洋に住んでいて、まるでイルカのように泳いでばかりいる鳥がいてのは本当に驚異です。アデリーペンギンは南極の繁殖地から1400キロ離れたところで発見された報告があります。さすがに水中を“飛ぶ”といわれるだけあって、水中でのペンギンの活動は自由自在です。イルカのように水面にとびあがりながら泳ぐ様は壯観ですが、それでも1400キロという青森から鹿児島までの距離にあたりますから、よくあの小さいからだでそんなに泳げると思うのですが、しかしもし翼があって空を飛べればそれは少しも驚くには足りない距離だと考えると、ペンギンが飛べないということは鳥としては大変なハンデキャップを負っていることになると思います。

ペンギンが人間を恐れない愛嬌者であることはご存知のとおりですが、それはペンギンが平和な生活をしていて危険を知らないからだという説明があったら、それは嘘です。たとえば、ペンギンは群れを作る習性がありますが、動物が集団生活をするというのは一種の安全保障であつて、彼等が弱くいつも大きい危険にさらされていることを示していると考えて良いでしょう。ペンギンの群れが海に入ると

きなどは、氷の縁でおしあいへしあいの大ききになるといわれています。みんなとびこみたくても一番乗りはやりたくないというのも、氷の下には恐ろしいアザラシが牙をむき出して待ち受けているかもしれないのです。アザラシよりも恐ろしい敵はシャチです。シャチはイルカの仲間ですが、イルカなら10頭くらいはペロリと平げるほどの海のギャングですから、ペンギンが何羽シャチに食われているかわかったものではありません。私はいつも、造物主はどうしてペンギンのような鳥を作り出したのかと不思議に思うのです。しかもペンギンの進化のあとを追究するのに役に立つ化石のペンギンは知られていません。可愛い道化師ペンギンはナゾの鳥でもあるのです。

ペンギンが人間を恐れないという、アメリカの南極観測基地での出来事が思い出されます。それは、基地の建設作業を見物にペンギンがわざわざ繁殖地から行列を作ってやってくるという生態観察です。このことを報告した隊員は、ペンギンのほうでも人間がペンギンに似ていると考えているのではないかと述べて、その好奇心を強調しています。この考えはたしかに面白いけれども、私はそれを人間の定義で好奇心というのはあまりに人間的すぎる判断ではないかと考えています。南極海から捕鯨船団によってペンギンが持ち帰られることがありますが、それはみなバックアイス（浮氷）の上で休んでいるペンギンを生け捕ったもので、そのためには氷のまわりから攻めたてて中央で捕りおさえるというのが常識です。片側から氷にとりついたのではペンギンは向こうから海へ逃げしてしまうからで、そんな時のペンギンの態度には飛べない鳥の戦さを感じられます。ペン

ギンの繁殖地には軽く5万羽の親鳥が集まると報告されていますが、これもトウゾクカモメに卵やヒナを盗まれるのを防ぐ集団防衛であつて、近くにやって来た人間を見物にやってくるのもペンギンの種族を守るための知恵から出たことで、おそらく好奇心などというものではないのじゃないかと考えています。私は数年前カリフォルニアのサンジエゴにあるシーワールドでシュイスайдダイビング（自殺的飛込み）というペンギンのショーを見たことがありますが、どうしてもペンギンが特別な知能指数を示すとは思えませんでした。その時には私は、ショーにつけられた“自殺”という標題の意味を味わいました。下にアザラシが待ち受けているというペンギンのあわれな運命を意識しながら見ていると、餌につられながらもひどくためらう様子が何かわけがあるように思えたからです。

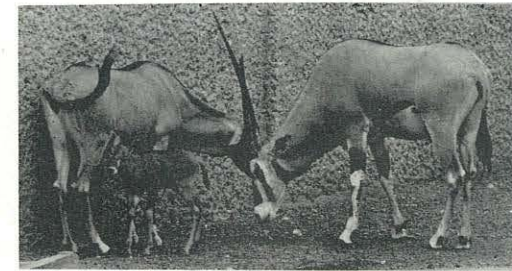
著者は金沢大学教授（解剖学専攻）。昭和22年から24年にわたって鯨類研究のため二度南氷洋捕鯨に参加した。趣味として動物写真の余技がある。

☆シュバシコウ2羽 豊岡へ旅立つ

ここ数年ふ化育雛で好成績をおさめているシュバシコウが、豊岡の野上で人工飼育されているコウノトリの乳母役として一役買うことになり、2月9日に旅立ちました。乳母役のシュバシコウは本園産で、すでに昨年、一昨年とふ化育雛を成功させており、今度の大役も無事はたすのではないかと思います。なお、この計画は、絶滅に面しているコウノトリをどうにかして救おうと文化庁はじめ、兵庫県教育委員会、地元、但馬コウノトリ保存会の熱心な要望があり、毎年、有精卵を産むのにふ化に至らないので、ふ化育雛の経験豊富な本園のシュバシコウに抱卵させてほしいということになったのです。

☆オリックスの赤ちゃん

今年初めての赤ちゃんが生まれました。この赤ちゃんのお母さんは、本園生れですから、初孫の誕生ということになります。



☆インディアンのテントが園内に展示される

万国博のアメリカ館で展示されていたテントが大阪市に贈られ園内に展示されています。このテントは「クロー・バップアロー・ティビー」と呼ばれ、アメリカインディアンが大草原を野牛を求めて遊牧していたときの移動式の家です。高さ約6m直径約4mの円すい形で、キャンパスには、インディアンのガラスとバップアローの絵が描いてあります。

最近の朝日新聞の記事の中から自然を愛し、動物を愛する人たちの声に掲載されていたので、ここであらためて御紹介します。

◎動物復活（今日の問題）

動物園のゴリラにはある種の風格がある。じつとずくまっているところは「考える人」のようだし、夕焼け空をみつめている風情にはどきりとするような哀愁さえある。というは人間の勝手な感傷であつて、動物にとっては、そんなやさしい事態ではない。オリの中を右往左往するクマも沈黙考とみえるオランウータンも、これみな一種のノイローゼ症状だと、動物学者はいう。果ては育児本能を忘れ、自分の足をかみ、狂乱状態となる。この現象は、日夜公害と過密に泣き、管理社会の味気なさを思い知らされている都会人には、ことさらに身につまされて深刻にうつる。

小さなオりに閉じこめられて、窮屈だろうな、ふるさとの原野が恋しいのだろうな、とつい同情してしまうのだ。その意味で、東京の上野動物園がことしから十年計画、14億円をかけて、オリ式の戯禽から「放棄式飼育」に切替えるというニュースは、まことに愉快である。「放棄式」というのは、上とみどりて自然に近い環境を作り、そこに動物を自由に遊ばせる。観客との間は堀などで遮断（しゃだん）する。これなら、動物たちもいくらかは気が休まることだろう。さびしさもまぎれるだろう。大阪の都心にある天王寺の動物園が、最近やっとオリを一掃したら、とたんにお産の回数や寿命の面で効果が見えてきたというのも当然のことなのだ。野性の動物は、人間の情操を豊かにしてくれる。だから子どもは動物園が好きで、おとなも機会があれば、子どもを連れて行きたがる。その動物園で、肝心の動物たちの姿が、いかにも不自由で、陰惨で、痛々しい印象を観客に与えたとすれば、すでに社会施設としての効果はない。ないというよりマイナスになってしまう。一国の文化水準は、動物園をみればわかるとさえいわれる。わが国の動物園は公、私立合わせておよそ百カ所。施設の数だけみると、アメリカ、西ドイツに次いで英国並みという。しかし飼育法となるとまだまだ「18世紀の見世物小屋の拡大版」という酷評さえ聞かれるのだ。これではGNPは自由世界二位だが、個人所得は格落ちというのと似たような話であり自慢にはならない。ついでにいってしまえば、日本には動物愛護法がない。いまどきこんな国は世界でも珍しいのである。人間復活の福祉国家を望むなら、一日も早く、残酷動物園を追放せねばならない。

“声”欄から
◎動物の声なき声聞け
人間としてだけ公害論じるな

吹田市 土井真喜男（学生 22歳）

本紙元日の第三部「追われゆく動物たち」は訴求力に富む特集であった。「太古から、絶える事無くともり続けて来た生命（いのち）の灯を大切にしよう」という言葉ではじまる園伊玖磨氏のアピールに、すべての人びとが意思表示すべきだと思う。公害、公害で明け暮れた昨年であったが、われわれは、どちらかという、人間にとつての悪、という視点から環境破壊を糾弾してきたのではない。しかし、自然破壊は、人間に対する以上に、動物を死滅させ、動物世界を崩壊させる悪であったのだ。開発、の名の下で経済の論理が貫徹する現在の状態がそのまま続けば、何十年後には、いまわれわれが眼前にしている動物でさえ、博物館行きとなりかねない。そして、かつての動物園鑑の動物名のほとんどに「幻の」という形容詞を冠せなければならなくなる。

さまざまな開発、公害審議会に踏込んで不満をブチまけたというのは、被害住民ばかりでなく、絶滅寸前の動物の代表たちである。彼らは人間と違い、意思表示すら満足にできないのである。ただ理解ある少数の人間にはかない希望をいただき、その行動をジッと見つめるしかない。今こそ彼らの声なき声聞いてやるべきだ。

テープレコーダーは、滅びゆく動物の声を録音するためにあるのではない。71年は、人間はもちろん、動物たちにも快適な生活が保障されねばならない。環境破壊はすべての生物の敵である。

◎日本人を恐れる自然

千葉県 吉村進太郎（会社員 36歳）

野鳥の中で人間を一番よく知っているのはスズメであろう。外国ではスズメのほうから人間に近づいてくるとよく聞くが、日本では人間を恐れて寄りつかない。このスズメを、人間を一番よく知っている自然物の一つと考えてみると、どういうことになるか。もし自然に心があるなら、日本の自然は人間を恐れているのかも知れない。

先日の本紙に自然鳥に対して米国と日本に起つた二つの事件を対照的に並べた記事があった。米国でタンカー事故のため流出した多量の油から水鳥を救い上げるため多数の市民や児童がその救出作業に動員されたという。日本では天然記念物の白鳥が棒でなぐり殺されたりして酒のサカナにされたというのである。この二つの違いがスズメの場合と無縁でないと言われるだろうか。

外国からの渡り鳥が余り人を恐れないのに、日本のスズメが警戒するのは前々から積り積つた現象なのであるうか。日本人は自然を愛する民族だとよくいわれるが、とんでもない錯覚なのかも知れない。自然は人間のためにあると考える一部の人間によって日本の自然は今傷だらけにされつつあるともいえる。自然は今や日本人から逃がれようとしているのである。

なきごえ 昭和46年2月15日発行 (毎月1回15日発行) 第7巻第2号 (通巻67号)

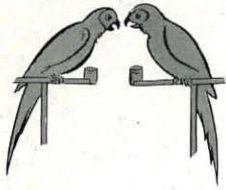
編集人/加藤寿雄 発行所/社団法人大阪市天王寺動物園協会 ●543 大阪市天王寺区玉木町2

電話 大阪 (06)771-0201

振替口座 大阪 37823

定価 50円

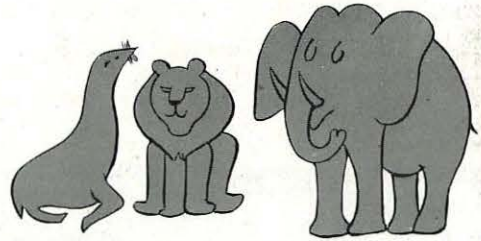
印刷所/株式会社 松村善進堂



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話 (078)22-8195・22-1517

飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話 (078)24-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

パイン・オレンジ・フルーツカクテル

各140c.c.=60円